



⇒E-mail fureainpo@gmail.com

⇒ホームページ

<http://www.fureai-support.jp/>



6・7月号

令和3年5月26日

- 法人事務所・アトリエ TEL 0244 (36) 5420
〒976-0042 相馬市中村字北町1-8 FAX 0244 (26) 5424
- デイサービス友遊(北町) TEL 0244 (26) 5424
- デイサービス友遊(南飯淵) TEL 0244 (36) 3582
- 相馬市中央児童センター(ポニー・ことり) TEL 0244 (35) 2008
- 飯豊小放課後児童クラブ(ひまわり) TEL 0244 (37) 8870
- 日立木小放課後児童クラブ(めだか) TEL 0244 (35) 3400
- 磯部小放課後児童クラブ(げんき) TEL 0244 (32) 1787
- 八幡小放課後児童クラブ(なのはな) TEL 0244 (26) 9011
- 相馬こどものみんなの家 TEL 0244 (35) 4700

アトリエ周りの木々の緑も色濃くなり、初夏を感じるこの頃。

北町アトリエの芝生には、今年も姫筍ができました。一日一日伸びていく様は子供の成長のよう・・・
新型コロナウイルス感染症はなかなか治まりませんが、昨年は中止とした田植えを、毎年管理をお願いしている高橋珍儀さんの計らいで、5月12日、14日の両日、3コースに分かれ実施することができました。

毎年天候が心配ですが、今年は気温も暖かく好天に恵まれ田植え日和となりました。

初めての田植えに、田んぼに入るまでが一仕事。

田植えの先生、山田ヒロ子おばあちゃんの手ほどきで全員田植え体験ができました。

その後のお着替えがまた大仕事。田んぼの泥を洗いさらずに手足に付けて帰った人もいましたね。お土産に・・・？

着替えの後は、昨年高橋さんに収穫してもらったお米で握ったオニギリ、コロケ、団子とジュースを自分たちの植えた田んぼをながめながら美味しくおやつをいただき、無事田植えが終わったお祝いをしました。

それぞれ全身で土、水、風、草等の自然をいっぱい体感できました。田植えから2週間、苗も根付いたようで水面で風にゆらいている様子が子ども達のように愛おしく感じます。

ひとつひとつの努力と苦労、そして失敗もスパイスとして、今年度も大きな収穫がありますように・・・

子ども達の心にもいろいろな種をまいたところです。秋の収穫をお楽しみに、収穫祭は勤労感謝の日を予定しております。



北町アトリエ勉強風景



南飯淵アトリエ勉強風景



たんぼでもアート



たんぼでもアート



ちいさな美術館作りのススメ



身近な生活空間の中で、アートを楽しみませんか。

場所は家の中の小さなスペース。例えば、玄関・トイレ・台所などに子供が描いた絵を飾る。子供が庭でつんだ草花をコップにさして窓に置く。そんなほんの小さなことが生活に潤いを、心にやすらぎと癒しを与えてくれます。

トイレを通して社会をよりよい方向に変えていく事をコンセプトに活動している日本トイレ研究所は快適なトイレは健やかな元気な心と体を育むということを説いて小学校のトイレ改善を手掛け全国を回っています。ちなみにアトリエのトイレには、子ども達が描いてくれた絵や工作・木製の小さな動物達・お花が飾ってあります。他にも、絵はがきやカレンダー・仏像や子ベットの写真・ためになる名言や教訓・外国からのお土産品置物など・・・

いろいろな物が飾られ、臭い・汚いイメージも一変して、行ってみたいトイレ美術館になっています。

お金をかけなくても、ちょっとした工夫で変身・・・。トイレ文化の創出になります。

ぜひ、子ども達の作品をみなさんのお家のどこかに飾っていただき、快適なトイレ空間の創造にお役立て『ちいさな美術館』を作って楽しんでください。どんな素敵な美術館になるでしょうか！

早速、勉強始めに描いた小さなパネルのお花のえを飾っていただき、みなさんのお家も潤っているようです。

楽しいな！

未就学児コース担当 水野友美子

絵画教室では、未就学児コース担当ということでパワー全開の子ども達に囲まれ、毎回汗をかきながらエネルギー全開にして奮闘しています。

おやつの時に交流する、デイサービスのおじいさん、おばあさん達も、子ども達の元気な声、明るい笑顔に「お～来たな～」と、顔がほころび嬉しそうです。犬のミルクも、喜んでかけまわります。毎週金曜日、アトリエは大にぎわい。豊かな発想で描いた子どもらしい絵とにこにこ無邪気な姿に“ほっ”といやされ“ほかほか”“ほっこり”子ども達は陽だまりのような存在です。とても楽しい時間が流れます。

幼少期はとってもかわいい時期ではありますがいろいろなことに好奇心を持ち、興味や関心、自分でやってみたいという気持ちが芽生えてくる大事な時期でもあります。これから芽を出して、花を咲かせるためにしっかりと土台作りをし、強い根っこをはらなければなりません。そこで幼稚園コースでは、まず、子ども達が造形活動や体験活動に興味を持てるようなカリキュラム作り、楽しくのびのび活動ができるような雰囲気、心掛けています。上手に描いたり造ったりする技法の指導も大事ですが、その前に子ども達の話の聞いたり、声をかけたりすることに力を入れ「〇〇したい」と意欲が出るよう導きたいと思っています。「やる気」と「意欲」があれば、その効果は期待できます。何事も好きになれば長く続き長く続けば力はつきます。

お子様の大事な時間をお預かりするわけですから「楽しい！」「毎日行きたい！」と、言ってもらえるような魅力的な教室になるよう、頑張りたいと思います。

田植え体験新聞記事より

福 島 民 友

2021年(令和3年)5月18日(火曜日)



田植えに挑戦する子どもたち

子どもが田植え体験 相馬 絵画造形教室の40人

NPO法人「ふれあいサポーターズ」は12、14の両日、相馬市南飯渕の水田で田植え体験教室を行い、子どもたちが自然に親しんだ。同NPOの恒例行事として実施され、今年で17回目。同法人が運営する市内2カ所の絵画造形教室に通う約40人が参加した。晴天の下、子どもたちは泥だらけになりながら苗を植えた。

50年ぶりの生徒になって

小学生コース担当 遠藤 裕子

5月14日、南飯渕の田んぼに向かう車の中、冗談話の間にも「きんちょうする～」 「ドキドキするな～」 「虫いるからダメだな」と、楽しみの中にもちよっぴり不安げな気持ちもちらちら見えた子ども達。しかし、いざ、田んぼを目の前にしたら、もう、農家の方の説明も上の空。苗を手にして一秒でも早く入りたくてうずうず……。そして、一歩足を入れるごとに歓声が。この感触？ 身動きするのも精一杯。初めての経験に「おもしろ～い」に、子ども達は変わっていきました。かく言う、相馬の生まれの私も、生まれて初めての田植え体験でした。

はじめまして、私は、55年前に一期生として、「絵画教室」に入室しました遠藤裕子です。昨年小学校の教諭を退職して、今年度から小学生コースの指導者としてお世話になります。

さて、田植えも終盤に近づくと、自分の植えた苗の穴を見ては、「このあな、なんだろう？」と。腕についている泥を指しては、「ドロ、かたまっている！」と、次々自然の中で発見していく子ども達。泥だらけになっている姿を見て、倉本先生が「お母さんよろこぶぞ！」この言葉は、教師をしていた私にとっては新鮮でした。

小川で手を洗い、青空の下ではおぼるおにぎりはおかわりのオンパレード。ブルーシートには座らず、ほとんどの子が立って食べていました。そして、帰る用意をしても、食べるのが遅い子にも「ゆっくり食べていいんだよ」と。これが学校なら、ウェットティッシュや座る場所の配慮、なんといっても時間に追われて、先手、先手の対応になるのが現実です。しかし、ここでは異年齢の子ども同士が触れ合い、気持ちがゆったりできる居場所になっている気がしました。

「絵画教室」で子ども達とやりたいことはたくさんありますが、「表現する楽しさを味わわせること」と「学校とは違った自分の居場所づくり」ができればなと思っています。子ども達から学んでいきたいです。どうぞよろしく お願いします。

福 島 民 報

2021年(令和3年)5月19日(水曜日)



泥んこになりながら田植えを体験する子どもたち

田植えに児童ら笑顔 相馬 相馬市のNPO法人「ふれあいサポーターズ」が、12、14の両日、相馬市南飯渕の水田で田植え体験教室を行い、子どもたちが自然に親しんだ。同NPOの恒例行事として実施され、今年で17回目。同法人が運営する市内2カ所の絵画造形教室に通う約40人が参加した。晴天の下、子どもたちは泥だらけになりながら苗を植えた。子どもたちは「おもしろ～い」と笑顔を見せた。秋には収穫した米を使っておにぎりを作って味わう。児童生徒は学年ごとに二日間に分かれて作業した。14日は、未就学児と小学生が参加し、水田の一角に苗を植えた。子どもたちは泥の感触を手足で抱き「気持ちいいね」と笑顔を見せた。秋には収穫した米を使っておにぎりを作って味わう。